



I-OWA マンスリー・セミナー座談会より 良い社会を創る個々人の意識

対談: 鬼丸 昌也氏、参加者のみなさま、岡本 和久
レポーター: 赤堀 薫里

岡本 | 鬼丸さん、今日は感動的なお話をありがとうございました。良い世の中を創るために「1人1人の人間が、どのように世の中に働きかけるか」ということですが、私は一般の生活者には、3つ立場があるとよく話をします。1つ目は、消費者としてどういうモノやサービスを選択するかにより、どのように社会にインパクト与えるのかということ。2番目は企業に関わるものとして、従業員としてその企業をどのような方向へ導いていくのか。3番目は資本の出し手として、企業をどう統治していくのか、あるいはお金をどのように寄付等へ回して使っていくのか。これら三方向の立場から個人が直接、あるいは企業を通じて、社会にインパクトを与えていくことが必要だと思っています。企業や政府が悪いというのは簡単ですが、結局、1人1人の小さな心の変化が寄り集まり、世の中に大きな変化をもたらすということ、強く感じます。鬼丸さんのされていることは、素晴らしいことだと思います。少年兵の悲惨な現実を伺えて、実り多いご講演でした。

参加者 | 私は、もう10年位になりますが、個人的に、カンボジアやフィリピン、タイの山奥等で、学校等の井戸を作ることや、畑を耕す為の牛を貸し出す活動を行っています。以前は、富裕層を中心にお金を増やすアドバイスをしていたのですが、今は現地に一緒にお客を連れて行き、お金使う教育をしています。彼らは、きっと一生では使い切れない資産を持っていますからね。



岡本 | 以前は資産家の為の資産運用のアドバイスをされていたが、今は資産活用のアドバイスを



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

されているのですね。これからの時代の移り変わりの中で、当然そういう方向になるでしょうね。

参加者 | 日本人は、お金を持っていることを表にしたがらないですね。持っている人ほど普段は G ジーパンと T シャツでいます。口も堅いので全部の資産を聞くまでには、4~5 年かかります。最近は使い方ということで、寄付の話をしませんが、それでもなかなか出そうとしない。

岡本 | もっとお金持ちになると話は違ってきますよね。6 月のインベストラ이프の尾藤さんのお話の中にありましたが、ウォーレン・バフェットは『私の持っている 100 万ドルは、自分が持っている、何の意味もないが、他の人に移すことによって物凄い価値を生むことになる。お金の価値をどうやって高めていくのかということが、ある意味すごく大事である』とっています。本当にそうだと思います。

参加者 | 私の気に入っている言葉で『資産を持つことが出来たことはとてもラッキー。自分はいくまでチャンネルであり、神様が幸運をくれたのだから、神様のチャンネルとして必要な人に配るのが人間だよ』というものがあります。

岡本 | 「お金というものは、人間の人格を判断するために神様がくれたテストだ」という、仏教的な考えを聞いたことがあります。世の中で「貯蓄から投資へ」と言われますが、私が証券会社に入社した 1971 年、その時の会長の新人に対するスピーチで「君たちはいい会社に入社しました。これからいよいよ貯蓄から投資の時代です。」と、言っていました。これって今、よく聞くセリフと同じですよ。要するに全然変わっていない。貯蓄から投資では、「安全なものから危ない方へ移しましょう」と、言っているわけです。それよりも逆に、「寄付から投資へ」という言いの方が普通の方が受け入れやすいのではないのでしょうか。投資とは企業を応援するということです。寄付をすれば、リターンは金銭で返ってきません。でも、困っている人に笑顔をあげ、その結果、自分も笑顔になるといリターンがあります。投資であれば、リターンは金銭で返ってくるかもしれない。困っている人に喜んでもらえ、その上、出した資金が増えて戻ってくるかもしれない。こんないいことはない。そう考える方がすんなりいきますよね。ミュージックセキュリティーズの被災地応援ファンドの出資は、それに近い気がします。

参加者 | 実は、私の父も森林保全の NPO 法人を沖縄でやっています。幼い頃から寄付文化の中で育った為、一般の人達に寄付文化がないことに驚きました。実際に講演活動をしている中で、「行動に変化が起こるのはどれ位の方達なのか。きっかけは何なのか」、父親の活動の参考にもなるので、よかったらお話を聞かせてください。

鬼丸 | 講演を通じて、月 1000 円のファンクラブ会員になっていただく方や、寄付をして下さる人が



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

いらっしゃいますが、そこには一つ一つの物語があります。顕著な例として、ある時、京都の事務所に桜の印が押してある手紙が届きました。開けてみたら、刑務所からのお手紙でした。僕の本が刑務所の中にあっただけで、それを読んでお手紙をくれたのでしょうか。その手紙の中には『あんたは、全ての人に未来を作る力があると書いてあるけれど、俺はあんたに言えないようなことをした。それでも全ての人に未来を作る力があるのか。』と書いてありました。『どうしようかな』と思いましたが、僕自身、中高生時代に、たくさんの人に手紙を書き、返事をもらったことが、この活動が続ける一つの意欲になっています。例えば、『政治家の秘書にしてくれ！』と手紙を書いたら、『まずは、高校に行きなさい。』と返ってきたりしてね。だから、自分も手紙をもらった時は、出来るだけ返事はすると考えていたので、返事を書きました。『あなたが何をしたら知りませんし、正直、興味もありません。でも、今あなたが思っていることが大事であり、僕は全ての人に未来を作る力があると信じているし、信じたいと思います。』と返しました。すると、1か月後に手紙と1万円が送られてきました。手紙には『これは、刑務作業で稼いだお金です。これをあなたの会の会費に充当してください。私も、自分に未来を作る力があると信じます』と書いてありました。今でも、1年に2回位手紙が届きます。

岡本| 鬼丸さんがその人に気づきを与え、その人の人生を変えたのでしょうか。魂のこもった言葉の力ですね。

鬼丸| その事例や、15年間話を聞いてくださった人達の変化を見て思うのは、『誰もが誰かの為に何かをしたい。』という気持ちが根底にあるんですね。ただこれは、僕達業界の怠慢かもしれないかもしれませんが、そこに適切な投げかけをしていないわけです。内閣府の2013年の統計で、寄付に対する調査がありました。「なぜあなたは寄付しないのですか？」という変な質問に、一番多いのが、「信頼できる団体がない」でした。そして、3番目位に多かったのは、『呼びかけられなかったから』と全体の3分の1が答えています。となると、確実にその方達は、適切な呼びかけをしたら寄付をしてくれる可能性があり、我々がリーチできていなかったわけですね。つまり、いいことをやっているだけでは駄目で、いいことの情報を求めている人達にどう伝えていくのかということです。僕はその手段の一つとして講演を行い、ボランティアの人達に協力をいただき多くの人に伝えていただく。いろいろなやり方をチャレンジしていくことを、僕たち自身も試されている時期なのかなと感じます。

参加者 | 私は行動経済学の勉強をしているので、行動経済学と寄付を考えることがあります。人間というのは、基本的に利己的である。でも寄付は利他的な行為で利己的ではないと言われるかもしれませんが、あれも十分利己的です。「そういうことをすることによって、自分が心の満足を得る」ということですからね。「本当にその人の為に」、ということがあるのかもしれませんが、結果としては、自分の心の満足につながっていくわけですね。



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

岡本 | 要は、出したお金がどうなるというよりも、相手が喜んでくれれば、自分も嬉しいという単純なレベルであり、それは先ほど鬼丸さんが言っていた人間に備わった本能なのかもしれませんね。「自利他利一如」という言葉もあります。つまり、他利＝自利なんです。

鬼丸 | ウガンダで、元子ども兵士が我々の職業訓練施設を卒業すると、必ず後追いの調査をします。最初に得た収入を何に使うのかと聞くと、大体 9 割くらいが、他者の為に使います。実はそれは自尊心につながってきます。元子ども兵士のフラッシュバックやトラウマの軽減具合は、彼らの自尊心が高いか低いかによって大きく変わってくるのです。元子ども兵士は、他者に貢献することによって自尊心が回復するということを、無意識の中で知っていたんですね。だから人間の機能として捉えることが十二分にできると思います。

岡本 | 寄付をもっと気楽に皆がやるようになってくるといいですね。確かに宗教的なバックグラウンドも多少あるかもしれませんが、人間に備わった本能的なものがすごく大きいと思います。結局、お金はそのものが喜びをもたらしてくれるものではない、お金をどのように幸福感とか満足感に変換していくかということが重要なのです。先ほど、寄付だって他利ばかりではなく自利でもあると言うコメントがありましたが、それはその通り。でもそれでいいのでしょうか。お金を媒体にして人も笑顔にして、自分も笑顔になる。それこそ本当の金遣いの王道のような気がします。今日は色々、考えるチャンスをいただきありがとうございました。